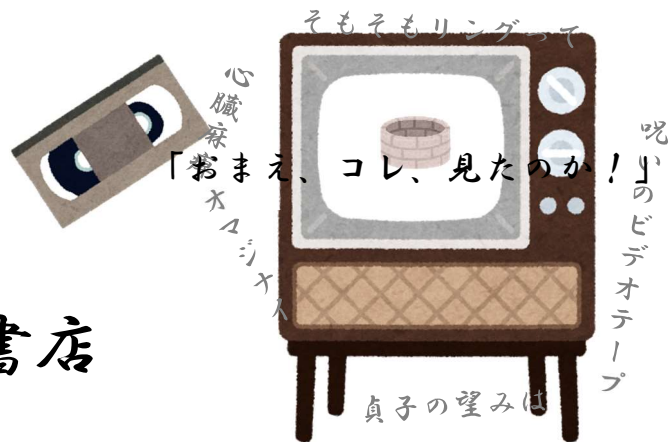


「この映像を見た者は、一週間後のこの時間に死ぬ運命にある。死にたくなければ、今から言うことを実行せよ。すなわち……」(本文より)

リング

鈴木光司／著 角川書店



雑誌記者の浅川は、若者の連続不審死を追ううちに、とても恐ろしい映像を見てしまう。圧倒的な恐怖に怯える浅川は学生時代の同級生・高山を巻き込み、死の運命から逃れる方法を探して奔走する。

そして、シリーズを読み進めていた私はだんだんと不安を感じ始めました。ブームとなり媒体を増やし、設定を変えた作品群もまた、作者の仕掛けた罠の中なのではないかと疑い始めたのです。その恐怖を、是非ご自分の目で確かめてみてください。もし読後に、そそのかした私を呪ってやりたい、と思っていたら本望です。